大学アンケート調査

大学の英語は「授業＝4 技能」、「外部検定の利用＝2 技能」が中心！

外部検定は TOEIC L&R が多数派。企業の新卒採用が影響？

旺文社 教育情報センター 2022 年 6 月 8 日

旺文社は 2021 年 12 月、全国の国公私立 775 大学に対して、大学入学後の英語の授業ならびに利用している外部検定についてアンケート調査を行い、572 大学から回答を得た。その結果、7 割以上の大学が英語の授業については「全学的に 4 技能を実施」と回答。一方で外部検定を利用した英語力測定については、そもそも利用していなかったり、TOEIC L&R（つまり 2 技能）のみを利用している大学が多く、必ずしも 4 技能測定ではないことがわかった。

●調査の主旨と概要

小中高校教育、および大学入試では英語の 4 技能化が進展している。それでは大学はどうか。本アンケートでは大学における英語の授業、また、「授業」「留学」「就職」の 3 つのシーンで利用している外部検定について調査し（いずれも 2021 年度）、特に技能数に着目して分析を行った。

【 調査内容 】「2021 年大学教育における英語力測定ツールの状況調査」
【 調査期間 】2021 年 11 月～12 月
【 調査対象 】国公私立 775 大学（専門職大学を含む。通信制のみの大学、文部科学省所管外の大学校を除く）
【有効回答数】572 大学（回答率 73.8%）

※各 Q に対して大学は大学単位で回答。該当する学科が 1 つでもあれば、大学全体として該当することに。
※各グラフの n は有効回答の大学数で実数。「複数選択可」の場合、各回答の合計は 100%にならない。

①「授業」等のための英語力測定

●4 技能教育の実践

授業は 4 技能なのか、そこでは英語力の測定に外部検定を利用しているのか、その場合は 4 技能なのか。【Q1】【Q2】では授業における 4 技能の教育と測定について聞いた。

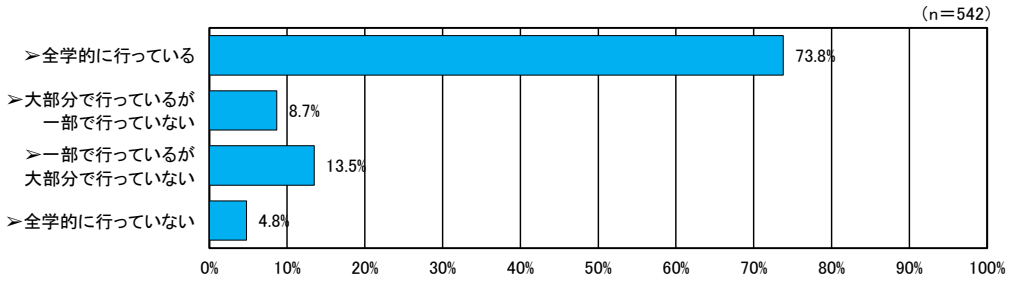
【Q1】では 7 割以上の大学が「全学的に 4 技能の授業を実施」と回答。「大部分」あるいは「一部」で 4 技能という回答を含めると 9 割台半ばとなる。大学の授業では 4 技能教育がかなり幅広く浸透している。

授業で不十分と思われる技能については（【Q2】）、「Speaking」と「Writing」の回答が多い。少人数の授業でない限り、この 2 点の指導や添削が困難なのは中学や高校と同じだろう。

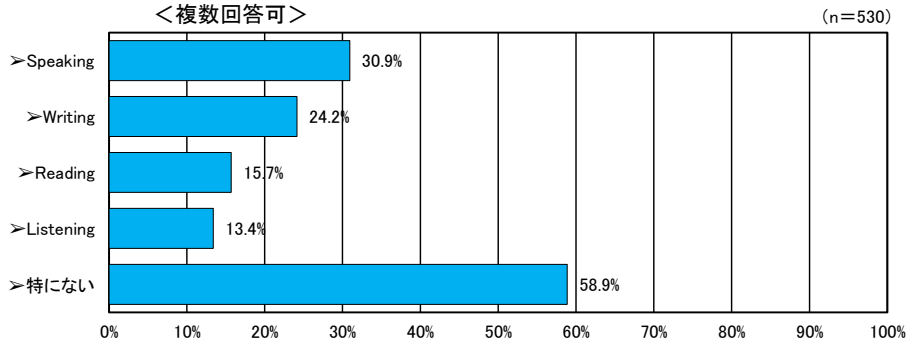
(c)2022 旺文社 教育情報センター

4 技能教育の必要性は学部・学科などによって異なるため、本記事は 4 技能教育を「行っている＝善」「行っていない＝悪」という立ち位置ではない。【Q1】で 4 技能教育を「全学的に行なっていない」と回答した大学も、【Q2】ではちょうど半数が「不十分な技能は特にない」、つまりこのままで良いという立場を示している。

【Q1】貴学の英語の授業は4技能の育成を行っていると思いますか。



【Q2】貴学の英語の授業で育成が不十分と思われる技能はありますか。
＜複数回答可＞



※【Q1】【Q2】いずれも詳細な回答基準は設けず、回答者の判断にて回答。

●授業で利用している外部検定

【Q3】では授業で利用している外部検定を尋ねた。ここではプレイスメントテストなど、授業で利用している外部検定を回答の対象とし、授業とは関連のない単位認定や資格取得支援講座での扱いは対象外とした。

集計結果では、外部検定を「利用していない」大学が半数近く。利用している外部検定の中では TOEIC L&R がもっとも多くて 3 割となった。しかしここで気になるのが、TOEIC L&R は Listening と Reading の 2 技能試験ということだ。

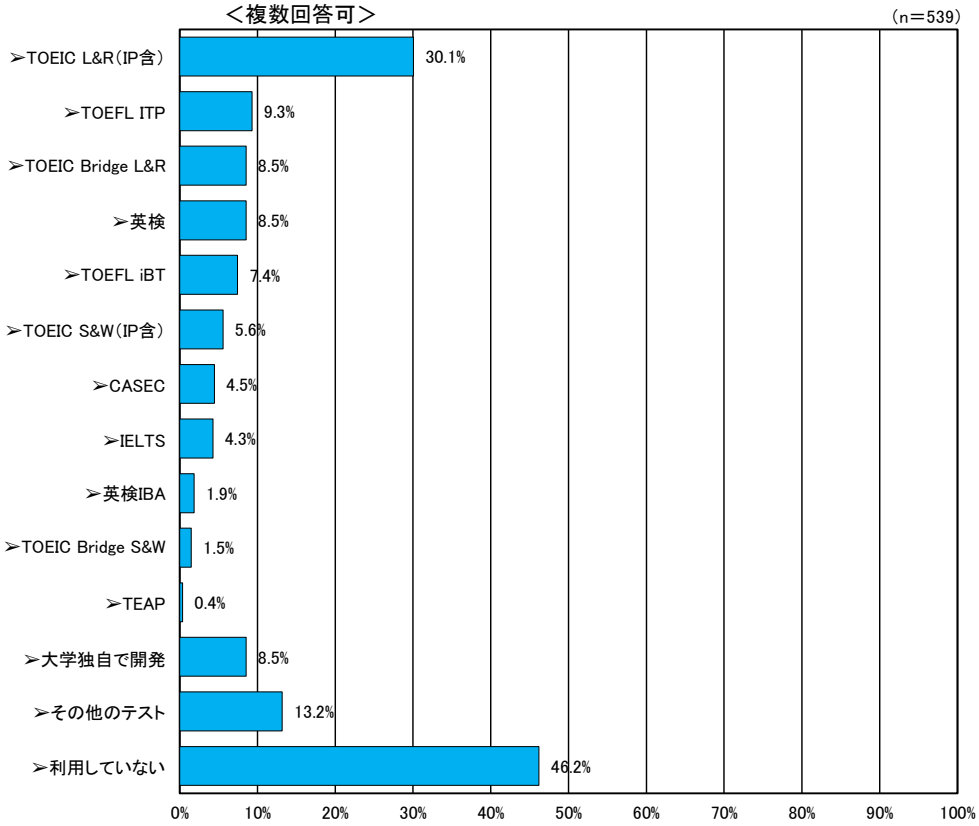
そこで利用している外部検定の技能数に着目し、改めて【Q3】を集計すると、「外部検定を利用していない＝46.2%」「2 技能か 3 技能試験のみ利用＝35.1%」「4 技能試験を 1 つでも利用＝18.7%」となった※。【Q1】では 4 技能の授業を実施している大学が大半だったが、その英語力測定等となると 4 技能は少数派。本アンケート項目は 1 学科でも利用している外部検定があれば回答する形式となっているため、実態はさらに少ないだろう。

※ここでは次の試験を 4 技能とみなした…英検／TOEFL iBT／IELTS／TEAP／TOEIC L&R と S&W の両方回答／TOEIC Bridge L&R と S&W の両方回答／「独自で開発」で 4 技能を回答／「その他のテスト」で 4 技能を回答。

(c)2022 旺文社 教育情報センター

授業における英語力測定で必ずしも外部検定を使う必要はないし、使うとなると検定料負担の問題も出てくる。とはいえ各教員が独自に４技能を測定することも難しい。小中高校からの４技能教育を引き継ぎ、大学の授業でもそれを実践しているのであれば、外部検定で４技能を測定することは有効だろう。

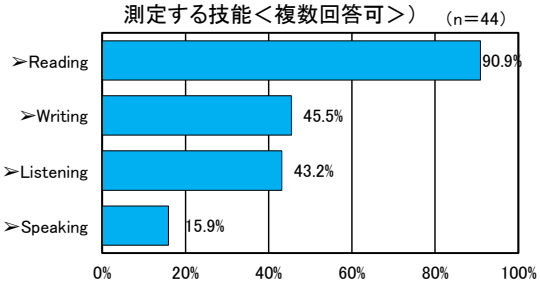
【Q3】英語の授業で外部検定等を利用していますか。また、それは何ですか。
＜複数回答可＞



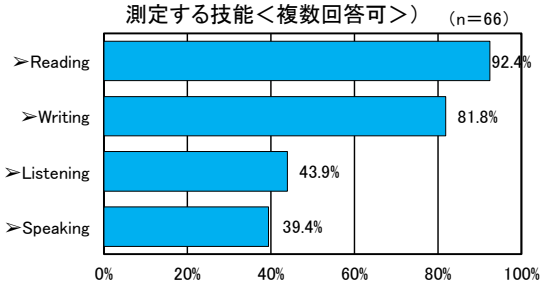
※プレイスメントテスト、アチーブメントテスト、単位取得・進級・卒業の要件など、授業で利用しているもの。
※授業とは関連のない単位認定での利用や、資格取得支援講座での扱いは除く。
※大学独自で開発したテストを含むが、各教員が自作した通常のテストは除く。

利用している試験には「大学独自で開発」、「その他のテスト」も若干ある。「大学独自で開発」の場合は「Reading」「Reading と Writing」「Reading と Listening」のテストが多く、これで７割。やはり Speaking が大きな壁となり、４技能のテストは１割に満たない。「その他のテスト」では「ELPA」「G-TELP」「VELC」「Oxford Placement Test」などが見られた。

（【Q3】で「大学独自で開発」の場合、
測定する技能＜複数回答可＞）

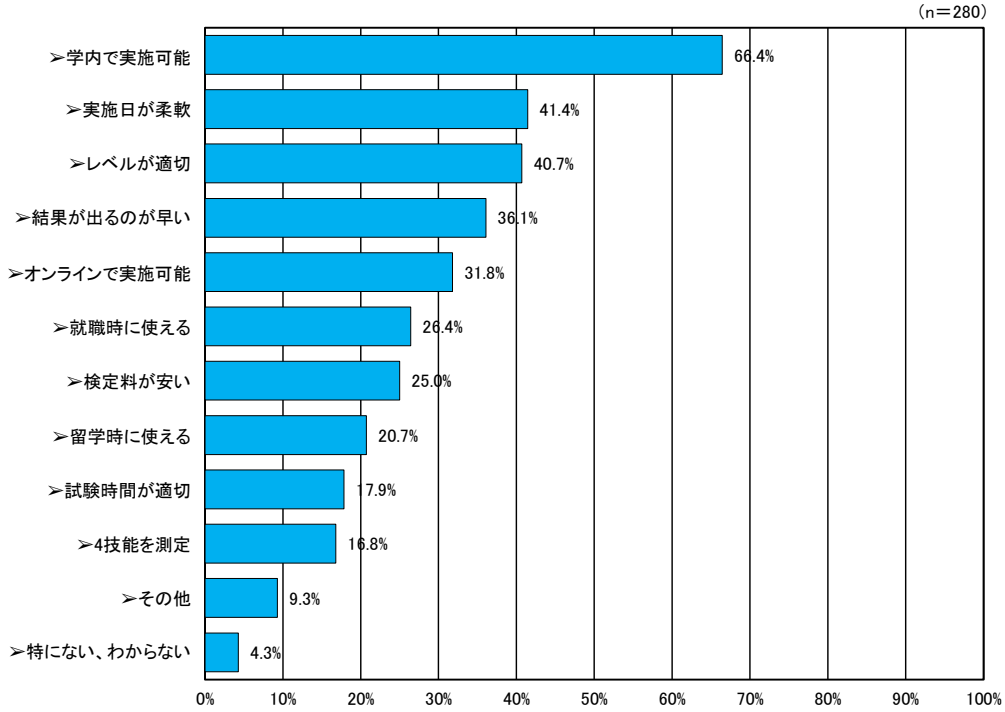


（【Q3】で「その他のテスト」の場合、
測定する技能＜複数回答可＞）



(c)2022 旺文社 教育情報センター

【Q4】Q3のテストのメリットは何ですか。＜複数回答可＞

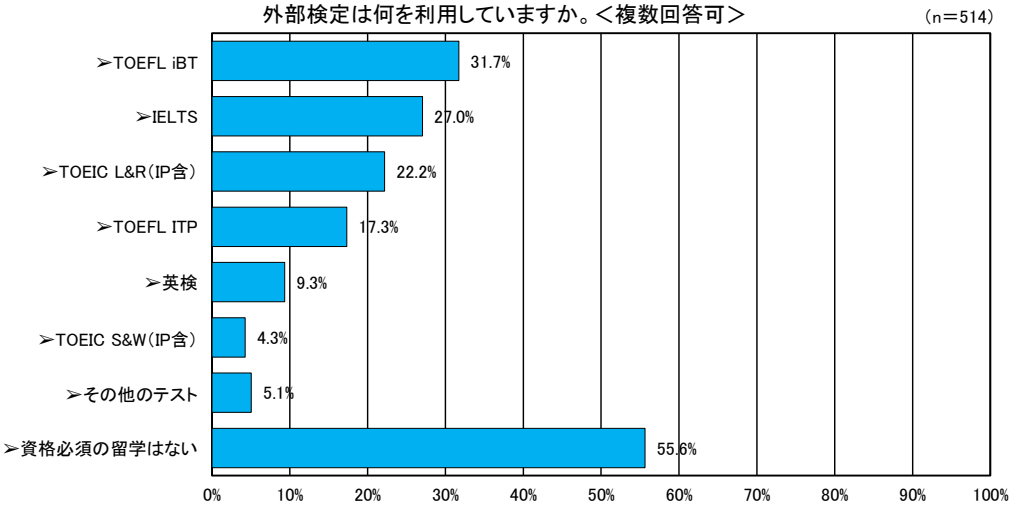


②「留学」のための英語力測定

●留学制度で必須としている外部検定

【Q5】では外部検定のスコアを必須とする留学制度がある場合、その外部検定を尋ねた。本アンケートは 2021 年度に関する調査のため、新型コロナによる留学そのものの減少が回答にも影響しているのかもしれない。しかし結果としては TOEFL iBT と IELTS が多く、その点について予想どおりと言えよう。

【Q5】貴学の留学制度で英語資格を必須とする制度がある場合、
外部検定は何を利用していますか。＜複数回答可＞



(c)2022 旺文社 教育情報センター

③「就職」のための英語力測定

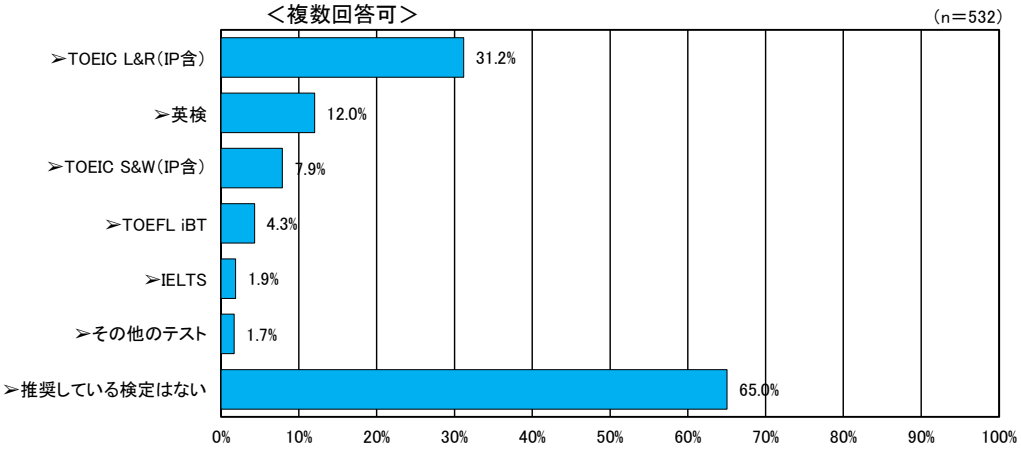
●就職活動で推奨している外部検定

就職活動の際に大学が推奨する外部検定は、TOEIC L&R が 3 割でもっとも多い(【Q6】)。むしろもっと多いイメージがあるが、「推奨している検定はない」が 6 割台半ばあり、これに押し下げられた。

ちなみに各大学が開講している資格取得支援講座では、「TOEIC 一強」の状況はより鮮明だ。旺文社が本アンケートとは別に行った調査では、語学系講座の開設率はそれぞれ「TOEIC＝96.1%」「TOEFL＝32.8%」「英検＝29.1%」※。この割合は 2021 年度に「TOEIC」「TOEFL」「英検」のいずれかの講座を開設した 409 大学に限ったものではあるが、それにしても圧倒的に TOEIC が多い。なお、この調査では L&R と S&W の区別まではわからないが、L&R が中心と思われる。

※2021 年『螢雪時代 6 月臨時増刊 進路決定 資格・職業・奨学金ガイド』より。

【Q6】就職活動に際して、学生に推奨している外部検定はありますか。
＜複数回答可＞



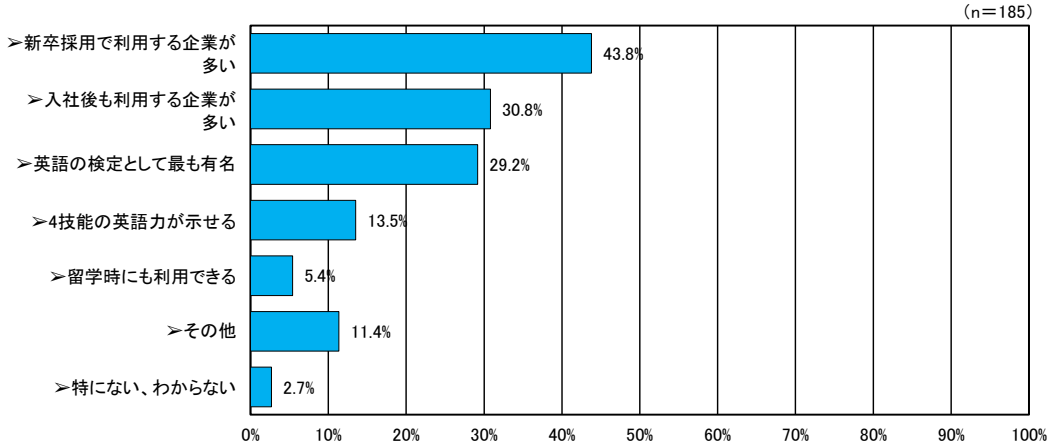
●推奨する外部検定の理由

【Q7】では就職活動で推奨している外部検定について理由を尋ねたところ、「新卒採用で利用する企業が多い」「入社後も利用する企業が多い」の 2 回答が多かった。前項の【Q6】で TOEIC L&R を推奨している大学も、2/3 がこのいずれかの理由を挙げている（あとは「英語の検定として最も有名」が多い)。つまり大学が TOEIC L&R を推奨する一因は企業側にあるといえる。

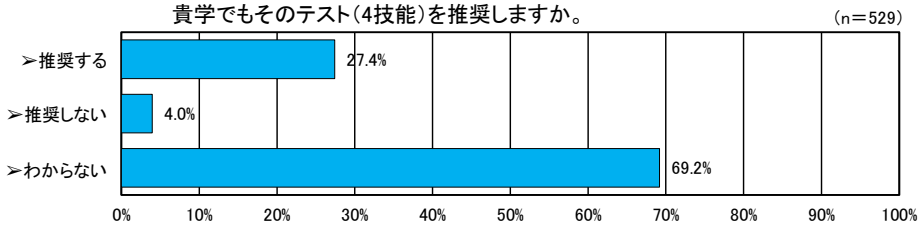
前述のとおり TOEIC L&R 単独では 2 技能しか測れない。TOEIC という試験が悪いのではなく、4 技能を測るのであれば S&W も併用することが必要だ。それでも学生に TOEIC L&R のみを推奨する大学が多いのは、新卒採用などに利用する企業が多いためと考えられる。しかし他方で、企業が 4 技能試験を使うようになれば大学でもそれを勧めるかという問いに対しては「わからない」が 7 割となってしまった（【Q8】)。これは本アンケートの回答者属性が入試・広報セクションが多いからなのかもしれない。

(c)2022 旺文社 教育情報センター

【Q7】Q6のテストを推奨する理由は何ですか。＜最大の理由いずれか1つ＞



【Q8】今後、新卒採用で4技能の外部検定の利用が拡大すれば、
貴学でもそのテスト（4技能）を推奨しますか。



④ その他の英語力測定

ここまで大学が利用する外部検定を「授業」「留学」「就職」の 3 つのシーンに分けて見てきた。アンケートでは最後に「それ以外の利用」についても尋ねた（自由記述。学内で試験実施しているものに限る）。

回答としては、「自己啓発」やそれに類する目的がほとんどで、外部検定はやはり TOEIC L&R（IP テスト）が多かった。

⑤ まとめ

本アンケートは大学が外部検定を用いて行う英語力測定について調査を行い、特に 4 技能試験なのか否かに注目して分析を行った。それは「小学校⇒中学校⇒高校⇒大学入試」で 4 技能化が急速に進展する中、その流れがどこまで続いているかを見るためだ。

結果として大学は「英語の授業＝4 技能」だけれども、「利用・推奨する外部検定＝利用・推奨しない、または TOEIC L&R の 2 技能」が中心であることが見えてきた。さらに TOEIC L&R が中心であることは、企業の新卒採用が影響していそうだという仮説も見えてきた。

冒頭示したとおり、すべての大学、学部・学科で一律に英語 4 技能が必要だとは思わない。ただし小学校から「大学⇒新卒採用⇒企業」までを含め、英語 4 技能の教育と測定がどのように接続されているのかを今一度しっかり調査する価値はあるだろう。

（2022.06 石井）

(c)2022 旺文社 教育情報センター